

第62回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所 ケアステーションるぴなす

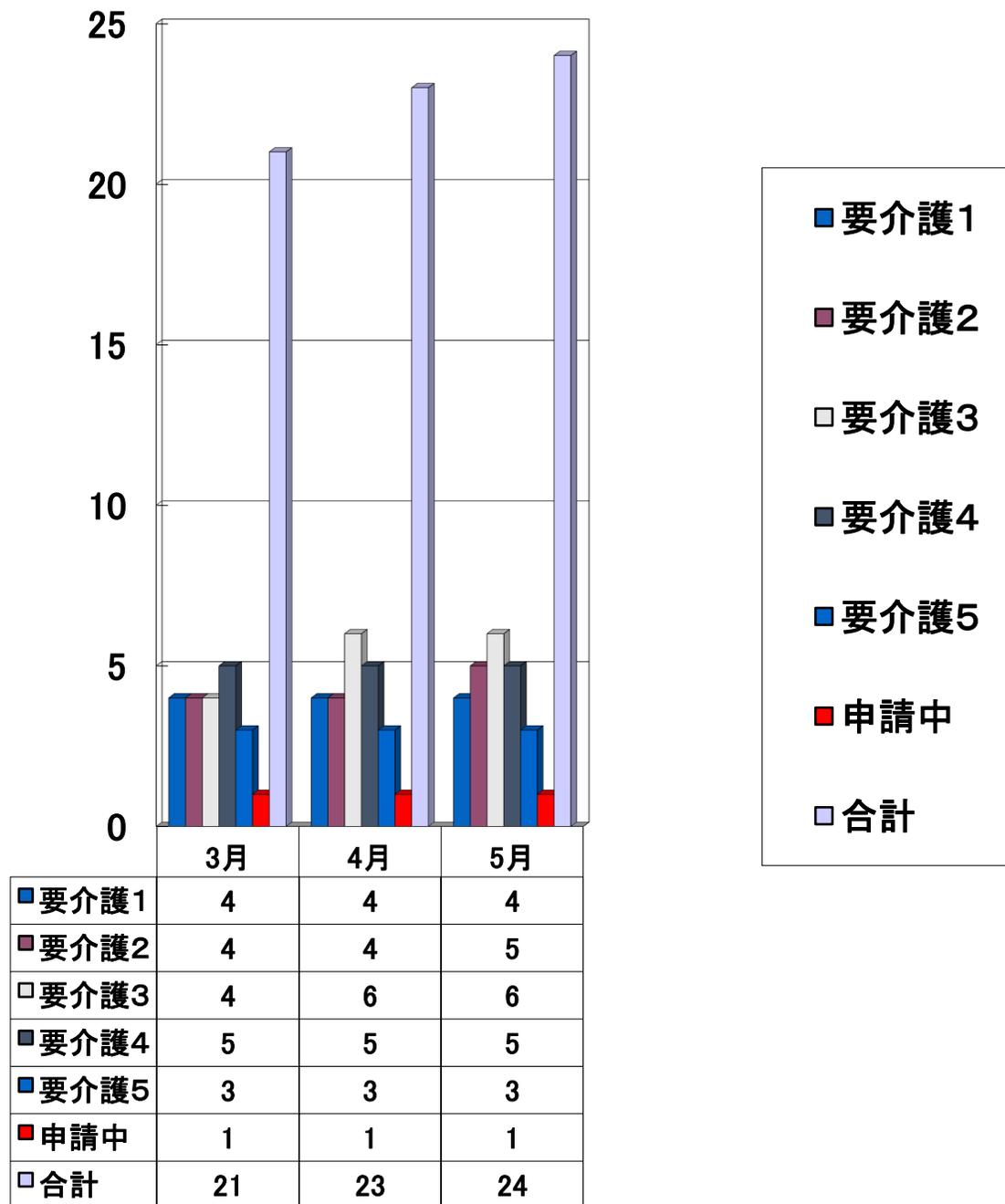
令和6年4月26日

第62回運営推進会議

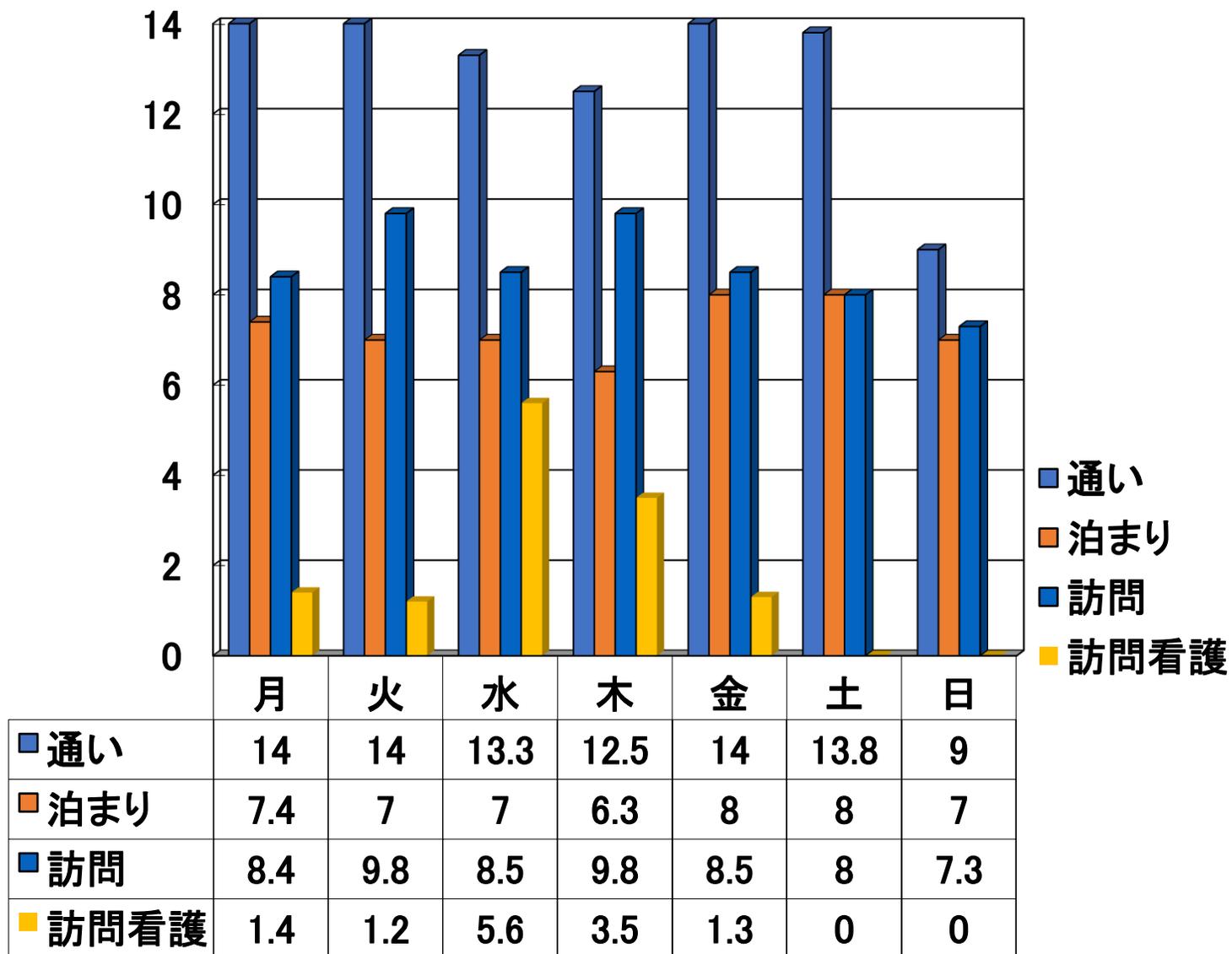
- るぴなすご利用者現況報告
- 看取りの報告
- 新規ご利用者
- 活動報告
- 意見交換

登録利用者数 令和6年3月～令和6年5月

4月
平均介護度 2.95



令和6年4月 曜日別延べ利用者数



目標管理シート 2024年11月～2025年3月

氏名

ひな形

るびなすの理念	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良さと居場所の良さを提供する。 ・居心地の良さと家族、居場所の良さは家～ご家族の代わりに居心地の良さと居場所の良さを提供する。 ・一人暮らしでも、高齢世帯でも、認知症でも、がん終末期でも、住み慣れた地域で最期を生きることができる。 ・そのためには、医療、介護、福祉、行政、住民と連携をはかり、ご利用者、仲間そして自らを大切にする。
---------	---

看多機の目標	・ご利用者の(が)、希望が叶う、楽しく過ごせる、笑顔が増える、尊厳が尊重される、その人らしく、安心して穏やかに、楽しみ・張り合いができる、社会の一員として生活する
--------	---

今年度の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> ①研修の機会の確保し、他職員への伝達を行う。 ②職員個々の目標を設定し、達成度合いを確認する。 ③情報の共有方法について、随時振り返り、検討する。 ④ご利用者と職員の安全確保について日頃より配慮し、注意点を話し合い喚起していく。 ⑤災害対策について話し合い、訓練していく。 ⑥ご利用者の状況変化に応じ、利用方法や支援方法は早期に検討し対応する。状況変化が落ち着いた時に、計画書を変更する。 ⑦多機関・多職種と連携し、希望の在宅生活が送れるよう支援する。 ⑧地域との情報共有、協力、交流を行い、住み慣れた地域で希望する生活が送れるよう支援する。 ⑨適切な接遇を心掛け、振り返りを行う。 ⑩外出行事、散歩、ドライブなど、天気の良い日は積極的に外に出る。 ⑪今まで関わりながら汲み取った思いや希望の情報を個別にまとめ、話し合う。希望の汲み取りが難しいご利用者は、センター方式やひもときシートを利用し考える。ケースカンファレンスにて話し合う。
----------	---

個人目標	改善計画の項目	重点目標 (11月～)	現状	目標達成の為の具体的方法 いつ(までに)どうするか	自己評価 (3月)	

<p>るびなすの理念</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良さと居場所の良さを提供する。 ・居心地の良さとは家族、居場所の良さは家～ご家族の代わりに居心地の良さと居場所の良さを提供する。 ・一人暮らしでも、老齢世帯でも、認知症でも、がん終末期でも、住み慣れた地域で最期を生きることができる。 ・そのためには、医療、介護、福祉、行政、住民と連携をはかり、ご利用者、仲間そして自らを大切に
<p>看多機の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の(が)、希望が叶う，楽しく過ごせる，笑顔が増える，尊厳が尊重される，その人らしく，安心して穏やかに，楽しみ・張り合いができる， 社会の一員として生活する
<p>今年度の改善計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①研修の機会の確保し、他職員への伝達を行う。 ②職員個々の目標を設定し、達成度合いを確認する。 ③情報の共有方法について、随時振り返り、検討する。 ④ご利用者と職員の安全確保について日頃より配慮し、注意点を話し合い喚起していく。 ⑤災害対策について話し合い、訓練していく。 ⑥ご利用者の状況変化に応じ、利用方法や支援方法は早期に検討し対応する。状況変化が落ち着いた時に、計画書を変更する。 ⑦多機関・多職種と連携し、希望の在宅生活が送れるよう支援する。 ⑧地域との情報共有，協力，交流を行い、住み慣れた地域で希望する生活が送れるよう支援する。 ⑨適切な接遇を心掛け、振り返りを行う。 ⑩外出行事，散歩，ドライブなど、天気の良い日は積極的に外に出る。 ⑪今まで関わりながら汲み取った思いや希望の情報を個別にまとめ、話し合う。希望の汲み取りが難しいご利用者は、センター方式やひもときシートを利用し考える。ケースカンファレンスにて話し合う。

【能登半島地震関連報告】

東日本大震災以降、被災地支援も変化しており、厚生労働省を中心とした「福祉関係団体連絡会議」が1月12日に設置され、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会も参画。介護職員の派遣は各都道府県を通じて登録・派遣されるスキームが構築され、避難所支援等が行われている。事務局及び正副理事長が被災地域を訪問。1月10日の初動から3回、被災事業所及び後方支援を行う石川県地域密着型サービスケア連絡協議会を訪問。3月13日からは会員事業所等からの支援金を持参し、被災事業所等へ皆様のお気持ちと支援金をお届けした。

第62回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所 ケアステーションるぴなす

開催日時：令和6年4月26日(金) 18:00～

出席者：高志2丁目自治会長・目黒様，民生委員・大嶋様

地域包括支援センター山潟・小石様，ご利用者ご家族・高山様，豊島様

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江

看護小規模管理者・吉井，計画作成担当者・中村

1 はじめに

- ・コロナ禍で交流もガラッと変わった。一般は今までの生活に戻っているが、医療・介護はクラスターもあり気を付けないといけない。感染症の勉強をし、地域の手助けになるようにしたい。
- ・3/31でデイサービス休止となり、訪問看護と居宅支援事業所の事務所がこちらに移り連携している。
- ・運営推進会議の説明。皆さんと連携し運営するよう国の定めにより2か月に1回開催。利用状況等の告等、ご意見を頂く。
- ・自己紹介

2、利用状況報告

- ・コロナのクラスターとなり一年程利用者数減少が続いたがようやく増えてきた。
- ・ヘルパーは時間の括りがあるが、看護小規模は時間の制限定めない。訪問回数、4月は596回。訪問加算は1か月200回。全国的にも訪問サービスの需要は多い。食事、排泄、掃除、+色々。訪問ニーズ高まっている。

3、看取りの報告

- ・16時にベッドで横になり、16:30に職員が訪室した時に呼吸をしていなかった。息子様が一生懸命で、運営推進会議にも出席して下さっていた。急だったが穏やかな最期だった。

4、新規ご利用者紹介

- ・一人暮らし，高齢の二人暮らしが増え、家族形態変わってきている。

5、活動報告

- ・ひなまつり...衣装を着て写真を撮り、お菓子を食べてひな祭りを祝った。
- ・行事...インフルとコロナの流行でできなかった節分行事の代わりに、桜の花の傘にボールを投げ入れた。
- ・お雛様，桃の花と写真撮影。
- ・テーブル拭き...時間になるとご自分から手伝って下さり、隅々まできれいに拭いて下さる。
- ・たたみ物...お二人で畳んで下さっている。
- ・花見...桜が咲き、暖かい日に外出した。
- ・クリスマスと節分は、行事計画してもコロナとインフルで思うような活動ができなかった。少しずつ暖かくなり、活動・外出できるようになった。
- ・お誕生会
- ・夜間想定避難訓練...夜間利用者最大9名、夜勤者1名。避難経路を考え行う。日々の訓練の積み重ねが大事。

6、サービス評価

- ・結果はホームページに掲載し、包括支援センターにもお持ちします。皆さん、ご協力ありがとうございました。
- ・改善計画の説明。目標管理シート。委員会。地域との交流。

7、能登半島地震関連報告

8、意見交換

○地域の情報交換

- ・支え合いのしくみづくり。スワンの里が主体となり専門学生とタイアップし、地域貢献できないか学校と相談しながら行っている。
- ・山潟おたがいさま有料ボラ30分500円。ボラも高齢になってきた。草取りや雪かきもある。
- ・お茶の間。老人クラブ。コロナ禍で少し減ったが地域によって違う。開催の仕方も地域差あり。頻度は多くないが変わらず活動されている。
- ・高志二丁目お茶会も再開しており、参加者はその時々で違うが人数は減っていない。
- ・以前行っていた夜の茶の間は良かった。アルコールありで18:30～20:00、地域のお肉屋さんの餃子を焼いて食べたり。地域の味を楽しむのも良いと思う。
- ・山潟会館の代わりに山潟中学に山潟コミュニティハウスができた。通称コミハ。行った時はヨガ教室をやっていた。駐車場が狭かった。管理はコミュニティ協議会、管理人3～4人交代で。平屋なので大勢入れない。ステージは無い。今までの山潟会館より広くない。催し物参加できるものあれば。学生も使える。何かあれば教えて下さい。
- ・1/1の能登半島地震。高志中等教育学校へ避難した。
- ・高志2丁目自治会会長は、目黒さんから岩田さんに変更されます。

○ご利用者ご家族より

・両親は昨年12月まで夫婦で何とか暮らしていた。今年1月に父が入院し、母は一気に訳が分からなくなり言う事も聞かなくなり斎藤先生に助けてもらった。一人で出掛けて骨折し、包括支援センターに相談し江東苑へ。わからない事が多くなっているが、るぴなすからの1日の4回の訪問で落ち着いている、ご飯美味しいと。このままでいて欲しい。母は家に居たい。自分は仕事に行けている。薬がきちんと飲めなかったので、預かって持って来てもらい助かっている。

...複数回の訪問は距離が近いから可能。中学校圏域だと行きやすい。

・両親は富山に50代半ばから夫婦二人暮らし。一昨年くらいから足腰が弱まり、車の運転やめてからは田舎なので買い物にも通院にも行けなくなった。食事宅配を利用していた。2年前からケアハウスに二人で住んだが、認知症が進みコロナにもかかり、どんどんできない事が増え、母が介護できない程となっていた。サ高住紹介されたが難しそうだった所、2月末、斎藤先生に声かけてもらった。最初はどうなるかと思ったが、表情明るくなり体の動きも良くなったと思う。医療と連携され泊まりができて助かっている。

どうぞ今後ともご支援ご協力をお願いします。

ケアステーションるぴなす スタッフ一同

